

(様式1)

自 己 評 価 表

愛媛県立松山中央高等学校
学校番号(23)

教育方針	心と心の触れ合いを大切にして、一人一人の個性を伸ばす教育を推進します。	重点目標	1 自然や人間との触れ合いの中で、思いやりの心と豊かな情操を育てます。 2 一人一人に応じた学習活動の中で、創造する力と表現する力を育てます。 3 規律ある生活習慣の中で、強い意志と健やかな体を育てます。
------	-------------------------------------	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
豊かな人間性	規範意識の高揚（生徒）	基本的な生活習慣の確立に向けて、8時15分までの登校実現100%を目指す。 A：100% B：99.9～99% C：98.9～98% D：97.9～97% E：96.9%以下	D	昨年度は8時15分に間に合わなかった生徒が一日平均で28.6人（実現97.3%）であったが、今年度は途中段階（12月末現在）で30.1人（実現97.1%）となった。様々な問題を抱える生徒が増えており、集団として規則正しい生活習慣の確立に影響があったと考えられる。同じ生徒が繰り返し指導されている現状もありこのような結果と	自転車通学が100%の状況であることを踏まえて、ゆとりを持った安全登校を習慣づけることを徹底したいと考えるが、目標達成が困難であった。家庭や学校生活に様々な問題を抱えている生徒も多く、同じ生徒が間に合っていない実態がある。そのため、各HRや学年単位での啓発を充実させるとともに、家庭や学校生活に不安を抱える生徒については、教育相談課や人権教育課と連携して早期に適切な対応をする必要があると考える。
	部活動の活性化（特活）	部活動加入率90%以上を目指し、より効果的で計画的な活動を推進しながら、継続して活動に参加できるようにする。 A：90%以上 B：89～85% C：84～80% D：79～75% E：74%以下	B	年度当初の加入状況が91.3%であったが、年度後半には転退部により87.6%の加入状況となった。転退部による加入率の低下が見られ、年間通じて数値目標を達成することはできなかった。	年間通じて学習と部活動の両立を目指している生徒も数多くみられたが、やはり中途退部する生徒も少なくない。各部活動の活動状況に応じた目標設定や修正により、主体的に継続して活動できる雰囲気づくりを促していく。
		より高い目標を設定し、全国規模の大会出場5団体以上を目指す。 A：5団体以上 B：4団体 C：3団体 D：2団体 E：1団体以下	B	文化部門では美術作品や課題研究成果の全国出品が2件、体育部門では2部が全校出場を果たし、合計4つの部活動が全国規模の大会・イベントに出場または出品することができた。また、校外活動ではあるが、生徒1名が全国大会に出場した。	前年度の活動状況や結果を踏まえながら継続的に活動できる環境を整えるとともに、さらに多くの部活動がより高い目標を持ちながら、意欲的に取り組む態度の育成に努める。
	読書活動の充実（図書研修）	生徒一人あたりの読書冊数年間10冊以上を目指す。 A：10冊以上 B：9～8冊 C：7冊 D：6～5冊 E：4冊以下	A	4月～12月の読書冊数（1・2年）は6,980冊である。（1年4,089冊、2年2,891冊）一人あたりは9.8冊である。（1年11.4冊、2年8.2冊）現時点で年間目標の一人当たり10冊以上を達成したクラスは1年6クラス、2年1クラスであった。	昨年度に引き続き、調査を学期ごとではなく、月ごとに行うことで正確に冊数の調査ができた成果であると考ええる。今年度は1年生の図書館の利用が多かった。また、ビブリオバトル等の活動で読書に興味を持つ生徒も多かった。次年度もこのような活動を通して多くの生徒が読書に親しむように努力したい。
	体験的・奉仕活動の充実（特活）	生徒会や家庭クラブ、各部活動を中心にボランティア活動や交流体験学習への積極的な参加を通して、奉仕の心と社会貢献への意識の高揚を図り、一人一回以上の参加を目指す。	B	今年度は2年生各クラス単位の介護体験学習も5年ぶりに実施することができ、家庭クラブをはじめ各部活動単位でのイベントボランティアなどは積極的に参加することができた。	介護体験学習については、依頼施設の状況に応じて関わり方を工夫しながら積極的に参加できるよう計画を進める。また、自分にできる社会貢献について考える機会として様々なボランティア活動への自主的な参加を促していく。
	清掃活動の徹底（保健環境）	自ら考えて時間いっぱい清掃できる生徒100%を目指す。 A：100～90% B：89～80% C：79～70% D：69～60% E：59%以下	B	平常時清掃10分間をフルに取り組む生徒及び取り組みさせている教員はほぼ100%に近いA評価と言えるが、自ら考え主体的に清掃に取り組めている生徒はまだ100%に満たないと言える。	清掃場所によって活動のばらつきが散見されるため、一人ひとりに応じた清掃分担場所の確保や道具の正しい使用や清掃方法についての指導を強化する。併せて、美化委員による月1回のトイレチェック活動と週2回のペットボトル回収活動も継続して行い、日々の行き届いた清掃への啓発と美化意識の向上を目指していく。
	個人面談の充実（進路・教育相談）	年間5回以上の個人面談を行う。 A:5回以上 B:4回 C:3回 D:2回 E:1回以下	A	おおむね年間5回以上の面談を達成することができている。生徒面接は進路指導の充実とともに、相互理解や悩み相談のよい機会となっている。	生徒や保護者が話しやすいと感じられる人間関係を構築しながら、様々な疑問や不安に丁寧に対応していきたい。担任だけが抱えるのではなく、校内外でサポートする体制を整えたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

自己評価表

愛媛県立松山中央高等学校

学校番号(23)

教育方針	心と心の触れ合いを大切にして、一人一人の個性を伸ばす教育を推進します。	重点目標	1 自然や人間との触れ合いの中で、思いやりの心と豊かな情操を育てます。 2 一人一人に応じた学習活動の中で、創造する力と表現する力を育てます。 3 規律ある生活習慣の中で、強い意志と健やかな体を育てます。
------	-------------------------------------	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
確かな学力	教科指導の充実（教務）	生徒による授業評価7.5以上を目指す。 A：10.0～8.0 B：7.9～7.5 C：7.4～7.0 D：6.9～6.5 E：6.4以下	A	半数以上が9.0を超えており、目標を達成できている。他学年と比較して、1年生の授業評価が低い傾向にあるので改善を図らねばならない。	生徒の授業評価アンケート結果を意識しながらも、日頃の授業における生徒の取組を観察したり、各種調査・模試の結果を分析したり、相互授業授業を行ったりすることで授業改善を図りたい。
	学習習慣の定着（教務）	1日の家庭学習時間の各学年の目標達成を目指す。 A：100%～90% B：89%～70% C：69%～50% D：49%～30% E：29%以下	B	1年生3時間、2年生3.5時間、3年生4時間の目標に対し、1年生1時間52分で達成率62%、2年生1時間54分で達成率54%、3年生3時間40分で92%であり、全体平均64%の達成率であった。特に2年生の取組がよくない。	2学期末調査2週間としては、学習時間が十分とは言えない。昨年より全ての学年で学習時間の低下がみられる。学習の質も大切だがまず、量そのものが不足しており、学力低下につながることが想像される。「何を」「どのように」「どのくらい」やるべきか、あまりにも幼稚ではあるが、丁寧に指示することが必要かもしれない。
	キャリア教育の充実（進路）	進路目標の実現率100%を目指す。 A：100～95% B：94～90% C：89～80% D：79～70% E：69%以下	B	今年度も外部業者に協力していただき、学年全体で学部・学科説明会を実施したり、希望者ではあるがオンラインによる進学ガイダンスに参加する機会を提供したりすることができた。	1・2年次から明確な進路目標を立てさせることと、3年次を見据えた指導を行う必要がある。
	進路指導の充実（進路）	国公立大学および難関私立大学の合格120名以上を目指す。 A:120名以上 B:119名～100名 C:99名～80名 D:79名～60名 E:59名以下	B	国公立大学および難関私立大学を合わせて、現在114名の合格者が出ている。今後、国公立大学に関しては後期入試が控えており更なる合格者増を期待したい。地元の松山大学に関しても、現在174名の合格者が出ている。	1・2年次から目標を高く持たせて、学習のみでなく、課題研究等にも意欲的に取り組ませることが必要であると考えている。
開かれた学校づくり	P T A 活動の充実（総務）	P T A 総会において、保護者の出席率40%以上を目指す。 A：40%以上 B：39～35% C：34～30% D：29～25% E：24%以下	A	総会当日行事全体への出席率54.8%。昨年度の38%を大きく上回った。コロナ禍自粛後、様々な活動が戻り、活発化している。また同日に参観授業、進路説明会を行った効果も表れている。運動会・中央祭のバザーや各種委員会活動の活性化を図り、より一層の充実を図りたい。	保護者連絡網サービスの活用により、学校から保護者への情報発信が容易となり、活動内容の周知が行われたことも大きい。今後も、PTA活動から集約された意見を適宜反映させ、一層のPTA活動の活性化が図れるよう、教職員との連携を図る。
	保護者との連携・協力（総務）	公開授業において、参加者数120名以上を目指す。 A：120名以上 B：119～100名 C：99～90名 D：89～80名 E：79名以下	A	公開授業参観者は、156名と昨年には及ばなかったが目標を達成した。昨年度参加のあった中学生の参加がなかったことも影響している。科目選択説明会との同時開催ではなかったことも要因である。今後、日程設定を考えていきたい。	来年度も、イングリッシュデーや科目選択説明会などといった行事と組み合わせることで、保護者の参加を促したい。保護者が学校に足を運ぶ機会を増やすことで、本校の取組や生徒の状況をより理解していただくきっかけにする。
業務改善	適切な勤務時間	教職員の勤務時間を守り、休憩時間を確保する。業務の効率化を図り、時間の有効活用を図る。また、業務にやりがいを持てるように適材適所の業務分担を行う。	C	各教職員が自身の勤務状況を振り返る機会を設定し、大生やスクールのサポート、テレワークの導入、システムやソフトの活用などにより、業務の削減や効率化を図った。一定の効果はあった。	業務分担・内容を、全体・各部署で見直し、形式的な会議などの縮減、行事の見直しなどを行う。また、教職員の更なる意識改革が必要である。そのためにも、教職員が安心して業務に当たれるような環境を整える工夫をしていく。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。